

運動会の季節



「ヒュー・ドンドン」けたたましく花火の音が村中に響き渡った。
 今日は大久野村小学校の運動会の日。今から65年前の10月青空の下、晴天に恵まれ楽しい一日の幕開けに子どもたちは赤と白の鉢巻をまとい精一杯の力を出して各種目に参加して行った。昼になると親や親族がご馳走を作って各子どもを中心に昼食を取ることが何よりの楽しみの一つでもあった。そして大久野村ならず全国の小中学校で秋は運動の「季節」と決定付けられていたのである。東京オリンピックも10月10日に行われ心身ともに爽やかな時期であった。しかし、現在を見ると季節の変化というか、温暖化による高気温で熱中症になるリスク多く、家の中にも間々ならない状況である。そんな中、全国の殆どの学校が夏に近い日程で運動会を行うようになっている。この事は正しい選択でしょうか？ 近年3月、4月、5月も夏日になることもある。報道では運動会の最中に生徒が熱中症で救急搬送された事例も数多く聞くところである。私はそれらを見ていて日本の指導者やそれに携わる人たちの考えに疑問を持っている者ですが、私だけでしょうか？ この先さらに温暖化が進み、さらにCO2が排出されれば温度が上がり危機的状況になるのは必至と言われる中、子どもたちやお年寄りなどの弱い人々を守る意味でも考えなくてはならない事柄ではないでしょうか。かねてより日本の秋は季節も良く、爽やかさに加えて色とりどりの景色や実りの秋とも言われて世界でもまれに見るメルヘンチック国の一つと賞賛されているこの国であり、私は運動会一つでもリスクを失くして子どもたちが何も心配なく運動できるのが秋の時期ではないかなと思わずにはいられません。



文： 伊藤 和男さん(日の出地区)

表紙のことば

長年あきる野市の専業農家である森さんご一家。ご主人の好雄さんは1999(平成11)年に勤めていた会社を退職し就農しました。先代に教えを乞いながら農業を続け、現在は息子の一浩さんが主体となり引き継いでいます。

好雄さんは畑仕事を頑張った後のおいしいご飯を食べること、温泉に行くことが何よりも好きだそうです。お友達と食事や旅行に行く事が好きな律子さんは、コロナ禍で旅行に行くことが出来なかった分、これから少しずつ、みんな旅行に行けるのが楽しみとのことでした。

息子の一浩さんは日々の畑仕事と休日にソフトボールをして体を動かすことが何よりも好きだそうです。ソフトボールが盛んなあきる野市の大会にも出場していて、優勝することを目標に練習に励んでいます。敦子さんはドラマを観ること、音楽鑑賞が好きで毎年好きなグループのライブにも参加しているそうです。駿斗さんは受験生で志望校に合格するため、日々勉強に励んでいます。好雄さんは、これから家族の健康に気を付けながら楽しく過ごしていきたいと話しました。



森さんご一家(東秋留地区)

左から▶

りつこ よしお
(妻)律子さん (本人)好雄さん

かずひろ はやと
(長男)一浩さん (孫)駿斗さん

あつこ
(長男の妻)敦子さん